

千体地蔵

明治時代、雲林寺から 1 キロほど離れた江良の小集落に住む森永という住職は、夢の中で地蔵菩薩の姿を見たという。地蔵菩薩は穴を掘って、そこで見つけたものを雲林寺に祀るようにと言ったという。森永は地蔵菩薩の命を受けて掘り始めた。驚いたことに、何百体もの小さな手作りの地蔵菩薩像が出てきた。それ以来、寺に安置されている。伝説によると、古代にはその場所に大きな寺院があったとされているが、誰がその像を埋めたのか、なぜ埋めたのかは謎のままだ。

このような像は「千体地蔵」と呼ばれ、全国の寺院でも数百体単位で発見されている。今回発見されたのは、高さ約 8 センチの像が 825 体。すべて陶器製で、それぞれ表情が異なる。顔料はほとんど色あせているが、多くは手描きの痕跡が見られる。地元の村人たちは、子供が病気になったり、女性が病気になったりすると、雲林寺戦隊地蔵様に病気が治るようにと祈りに来ていた。

お地蔵様は日本で最も愛されている仏様の一つで、特に女性や子供、旅人の守護神として有名で、生者や死者の苦しみを和らげ、信仰者を阿弥陀の西国の極楽浄土へと導く役割を担っている。